京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2020-4

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇二〇-四
平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡
公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡

2020年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡

2020年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、共同住宅新築工事に伴う平安京跡・西京極遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

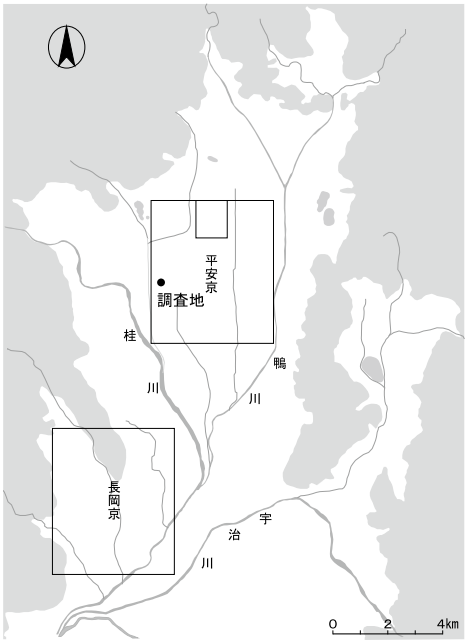
令和２年12月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	平安京跡・西京極遺跡　（京都市番号　19Ｈ604）
2	調査所在地	京都市右京区西院安塚町99番地１
3	委　託　者	日本ホールディングス株式会社　代表取締役　八尾浩之
4	調 査 期 間	2020年５月12日～2020年６月２日
5	調 査 面 積	約120㎡
6	調査担当者	布川豊治
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「山之内」・「西京極」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
12	遺 物 番 号	通し番号を付し、写真番号も同一とした。
13	本 書 作 成	布川豊治・柏田有香
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



（調査地点図）

目　　次

１．調査経過 ……（布川） 1
２．位置と環境 ……（布川） 3
（１）位置と環境 …… 3
（２）周辺の調査 …… 3
３．遺　　構 ……（布川） 5
（１）基本層序 …… 5
（２）遺構の概要 …… 5
（３）第１期の遺構 …… 5
（４）第２期の遺構 …… 10
４．遺　　物 ……（柏田） 12
（１）遺物の概要 …… 12
（２）土器類 …… 12
（３）石器 …… 16
５．ま と め ……（布川・柏田） 18

図　版　目　次

図版１　遺構　１　第１期全景（北から）
２　建物１（北東から）
図版２　遺構　１　建物２（北東から）
２　建物１柱穴45根固め石検出状況（北西から）
３　柱穴36礎板検出状況（北から）
図版３　遺構　１　第２期全景（北から）
２　溝51（南東から）
図版４　遺物　土器
図版５　遺物　土器・石器

挿　図　目　次

図１　調査位置図（１：2,500）　……　1
図２　調査前全景（南から）　……　2
図３　調査状況（北西から）　……　2
図４　調査区配置図（１：300）　……　2
図５　周辺調査位置図（１：5,000）　……　3
図６　調査区西壁・南壁断面図（１：50）　……　6
図７　第１期遺構平面図（１：100）　……　7
図８　建物１実測図（１：50）　……　8
図９　建物２実測図（１：50）　……　9
図10　建物３実測図（１：50）　……　9
図11　柱穴列４実測図（１：50）　……　10
図12　柱穴列５実測図（１：50）　……　10
図13　柱穴36実測図（１：50）　……　10
図14　溝51セクション断面図（１：50）　……　10
図15　第２期遺構平面図（１：100）　……　11
図16　溝51下層出土土器実測図（１：４）　……　13
図17　溝51上層出土土器実測図１（１：４）　……　15
図18　溝51上層出土土器実測図２（１：４）　……　16
図19　石器実測図（１：４）　……　17
図20　遺構変遷図１（１：500）　……　18
図21　遺構変遷図２（１：500）　……　19

表　目　次

表１　周辺調査一覧表　……　4
表２　遺構概要表　……　5
表３　遺物概要表　……　12

付表１　土器観察表　……　21

平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡

1．調査経過

本調査は共同住宅新築工事に伴う発掘調査である。調査に先立って京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「京都市文化財保護課」という）により試掘調査が実施され、遺構が確認されたため、発掘調査の指導がなされた。調査は原因者から委託された公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が行うこととなった。今回の調査地西隣で2008年に実施された調査では弥生時代の竪穴建物・溝、古墳時代の竪穴建物・掘立柱建物・溝などを検出しており、同様の遺構の検出が想定された。

調査区は京都市文化財保護課の指導に従い、調査地の南半に南北12ｍ、東西10.5ｍのほぼ方形で、面積約120㎡に設定した。調査は重機により地山面まで掘削し、そののち手作業により遺構検出、遺構掘削を行い、図面・写真の記録作業を進めた。調査では古墳時代から飛鳥時代の掘立柱建物・柱穴列、弥生時代後期から古墳時代前期初頭の溝などを検出した。

調査中は適時、京都市文化財保護課の臨検・指導を受け、さらに検証委員（京都大学の伊藤淳史氏、龍谷大学の國下多美樹氏）による視察・助言を受けた。

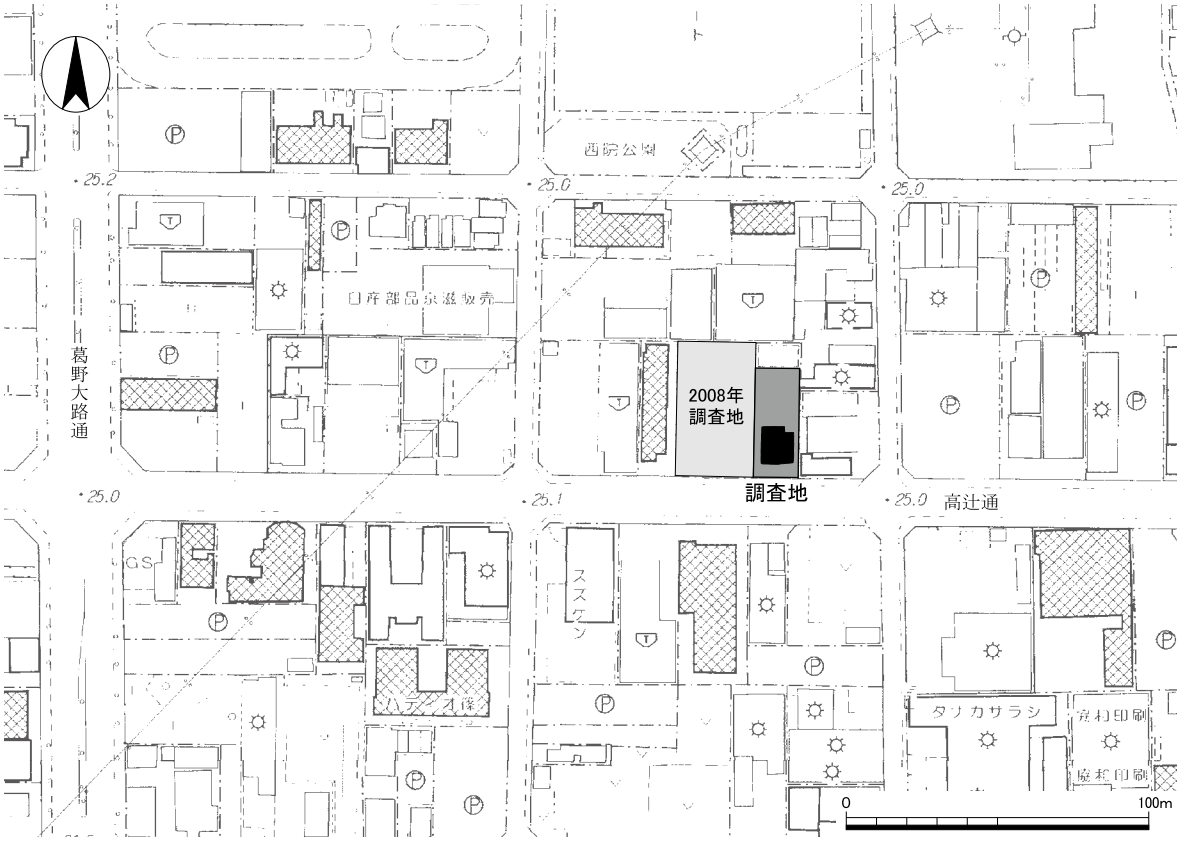


図１　調査位置図（１：2,500）

図２　調査前全景（南から）

図３　調査状況（北西から）

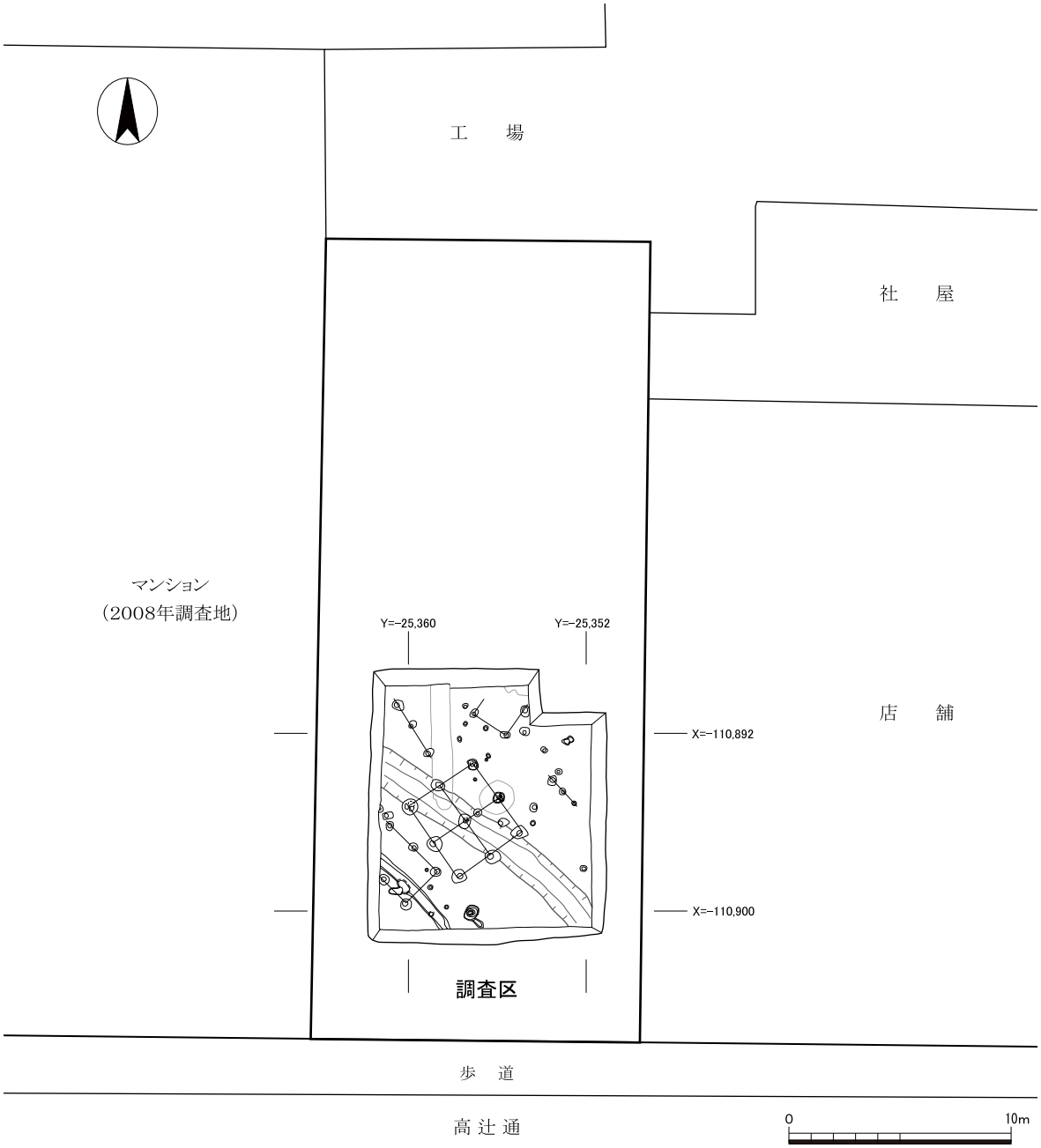


図４　調査区配置図（１：300）

２．位置と環境

（１）位置と環境

調査地は京都盆地西部の中央寄りに位置する。旧御室川と旧紙屋川の扇状地上に位置し、現在は、調査地の西約0.5㎞に天神川、さらに約1.4㎞に桂川が南流する。過去の発掘調査から、扇状地内の小河川により形成された微高地上に弥生時代中期頃に集落が形成されはじめたことがわかっている。遺跡地図では、平安京右京五条四坊六町跡にあたる。また、弥生時代から奈良時代にかけての集落遺跡である西京極遺跡の北部中央にもあたる。

（２）周辺の調査（図５、表１）

主な周辺の調査について述べる。調査１（番号は図・表と同じ。以下同様）は1990年の調査で、弥生時代から古墳時代の溝、古墳時代後期の竪穴建物３棟、平安時代の五条大路南側溝が検出されている。調査２は1994年の調査で、弥生時代後期の方形周溝墓・竪穴建物、飛鳥時代の総柱建物１棟、奈良時代の掘立柱建物３棟などが検出されている。古墳時代後期の溝からは三輪玉が出土している。調査３は2006年の調査で、弥生時代中期から後期の方形周溝墓６基、古墳時代後期の掘立柱建物１棟、平安時代の掘立柱建物４棟・井戸１基が検出されている。調査４は今回の調査地の西隣にあたり、2008年に調査され、弥生時代後期の溝、弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴建物18棟、古墳時代中期から後期の掘立柱建物３棟などが検出されている。調査５は2008～2009年の調査で、縄文時代後期前半の埋甕遺構、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物12棟、古墳時代

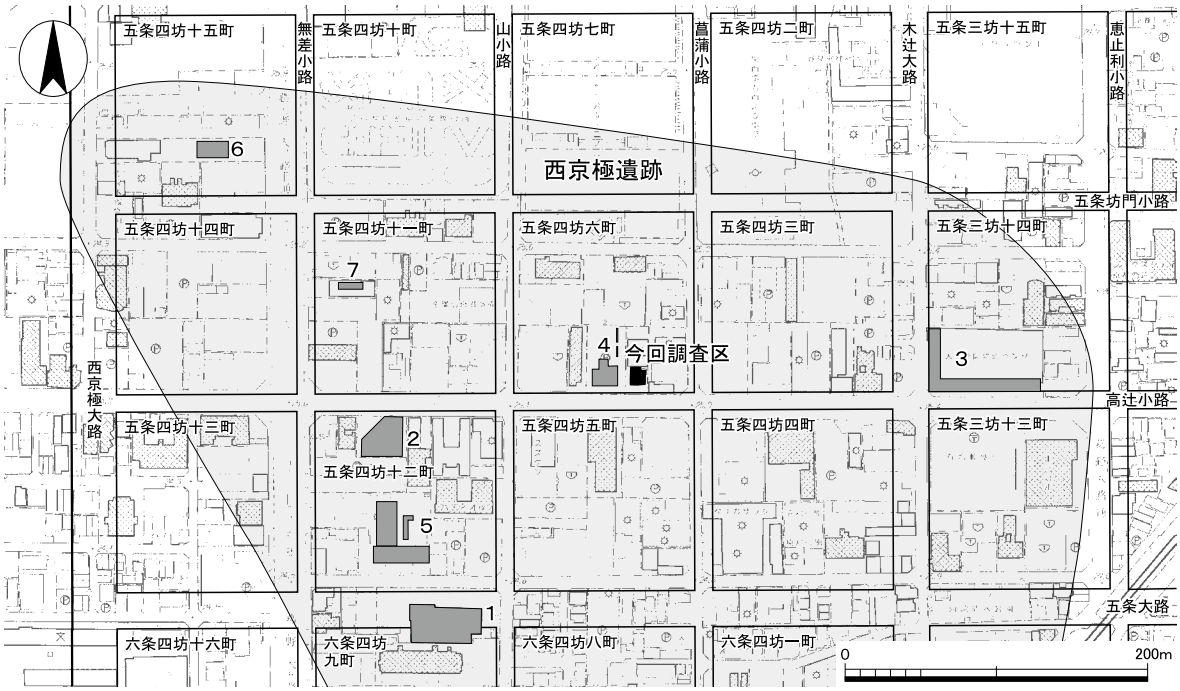


図５　周辺調査位置図（１：5,000）

表１　周辺調査一覧表

№.	調査概要	文献
1	弥生時代～古墳時代の溝、古墳時代後期の竪穴建物３棟、平安時代の五条大路南側溝を検出。 縄文時代～平安時代の遺物が出土。縄文時代の石器、弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器、平安時代の土師器・須恵器・瓦などが出土。	1
2	弥生時代後期の方形周溝墓・竪穴建物、古墳時代後期の溝、飛鳥時代の総柱建物１棟、奈良時代の掘立柱建物３棟を検出。古墳時代後期の溝から三輪玉出土。 弥生時代～奈良時代の遺物、弥生土器・石器・土錘・布留式土器・土師器・須恵器などが出土。	2
3	弥生時代中期～後期の方形周溝墓６基、古墳時代後期の掘立柱建物１棟、平安時代の掘立柱建物４棟・井戸１基を検出。弥生時代～平安時代の遺物が出土。平安時代の遺物が大半。弥生土器・石器・土師器・須恵器・輸入磁器・緑釉陶器・灰釉陶器などが出土。	3
4	弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物11棟・溝、古墳時代中期～後期の竪穴建物７棟・掘立柱建物３棟、奈良時代～平安時代の溝・柱穴を検出。 弥生時代～平安時代の遺物、弥生土器・庄内式土器・石器・土師器・須恵器などが出土。	4
5	縄文時代後期前半の埋甕遺構、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物12棟、古墳時代中期～後期の竪穴建物26棟、奈良時代～平安時代の掘立柱建物15棟を検出。古墳時代の竈形土器など出土。 縄文時代～平安時代の遺物、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石製品などが出土。	5
6	古墳時代前期の竪穴建物３棟、古墳時代後期の溝、奈良時代～平安時代の溝を検出。 弥生時代～平安時代の遺物が出土。弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器・石製品、飛鳥時代の須恵器、奈良時代の土師器・須恵器・瓦、平安時代の須恵器・灰釉陶器。	6
7	古墳時代～飛鳥時代の竪穴建物６棟・炉１基、奈良時代の掘立柱建物１棟などを検出。 縄文時代～江戸時代の遺物が出土。主な遺物は弥生土器、古墳時代の須恵器、飛鳥時代の須恵器、平安時代の土師器・須恵器など。	7

中期から後期の竪穴建物26棟、奈良時代から平安時代の掘立柱建物15棟が検出されている。調査６は2011～2012年の調査で、古墳時代前期の竪穴建物３棟、古墳時代後期の溝、奈良時代から平安時代の溝が検出されている。調査７は2013年の調査で、古墳時代から飛鳥時代の竪穴建物６棟、炉１基、奈良時代の掘立柱建物１棟などが検出されている。

文献（表１　周辺調査一覧表）

1　山下秀樹ほか『平安京右京六条四坊九町・五条大路』京都文化博物館調査研究報告第８集　京都府京都文化博物館　1991年

2　伊藤 潔「平安京右京五条四坊」『平成５年度　京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1996年

3　木下保明・西森正晃『平安京右京五条三坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006－7　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2006年

4　西森正晃・柏田有香『平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007－20　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2008年

5　家崎孝治・上村憲章『平安京右京五条四坊十二町跡・西京極遺跡』 古代文化調査会　2010年

6　内田真一郎・持田 透『平安京右京五条四坊十五町跡・西京極遺跡』イビソク京都市内遺跡報告第３輯　株式会社イビソク　2012年

7　布川豊治「平安京右京五条四坊十一町跡・西京極遺跡（13HR121）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成25年度』 京都市文化市民局　2014年

３．遺　　構

（１）基本層序（図６）

基本層序は、現地表面（以下GL）から－0.5～0.7ｍ前後までが現代盛土である。以下、近世から近代耕作土、近世耕作土と続き、GL－0.9ｍ前後で中世耕作土、GL－1.0ｍ前後で奈良時代から平安時代の遺物包含層、GL－1.1ｍ前後で地山となる。調査は地山上面で行った。

（２）遺構の概要（表２）

調査した遺構面は地山面の１面である。検出した遺構は掘立柱建物３棟、柱穴列、柱穴、土坑、溝などである。それらは時期差が認められ、古墳時代から飛鳥時代までの遺構を第１期、弥生時代から古墳時代前期初頭の遺構を第２期として調査した。

なお、地山の上面が土壌化している部分を重機掘削で除去したが、断面を精査したところ、西壁に竪穴建物の埋土と考えられる土層（図６の西壁12～16層）が確認でき、竪穴建物２棟が存在した可能性が高い。

（３）第１期の遺構（図７、図版１）

建物１（図８、図版１・２）　調査区中央部西寄りで検出した２間×２間の総柱掘立柱建物である。規模は、桁行が約3.9ｍ、柱間は約1.95ｍである。梁行は約3.3ｍ、柱間は約1.6ｍ・1.7ｍである。柱穴掘形は、長径0.5～0.6ｍの隅丸方形あるいは楕円形で、深さは0.2～0.3ｍである。建物の方位は北に対して西へ約36度の傾きを持つ。建物北西側の柱穴には底部に拳大の石を敷き詰め根固めとしている。柱穴掘形からは、飛鳥時代の遺物が出土した。

建物２（図９、図版２）　調査区南西部で検出した１間×２間以上の掘立柱建物である。桁行は3.0ｍ以上、柱間は約1.5ｍである。梁行は約2.0ｍである。柱穴掘形は、長径0.4～0.5ｍの楕円形で、深さは0.2～0.4ｍである。建物の方位は北に対して西へ約45度の傾きを持つ。柱穴掘形から古墳時代の遺物が出土した。

建物３（図10）　調査区北部中央寄りで検出した１間×１間以上の掘立柱建物である。桁行は1.5ｍ以上、柱間は約1.5ｍである。梁行は約1.75ｍである。柱穴掘形は、長径0.3～0.5ｍの楕円形で、

表２　遺構概要表

時　　代	遺　　構	備　　考
弥生時代後期～ 古墳時代前期初頭	溝51	第２期
古墳時代	建物２・３、柱穴列５	第１期
飛鳥時代	建物１、柱穴列４、柱穴36	第１期

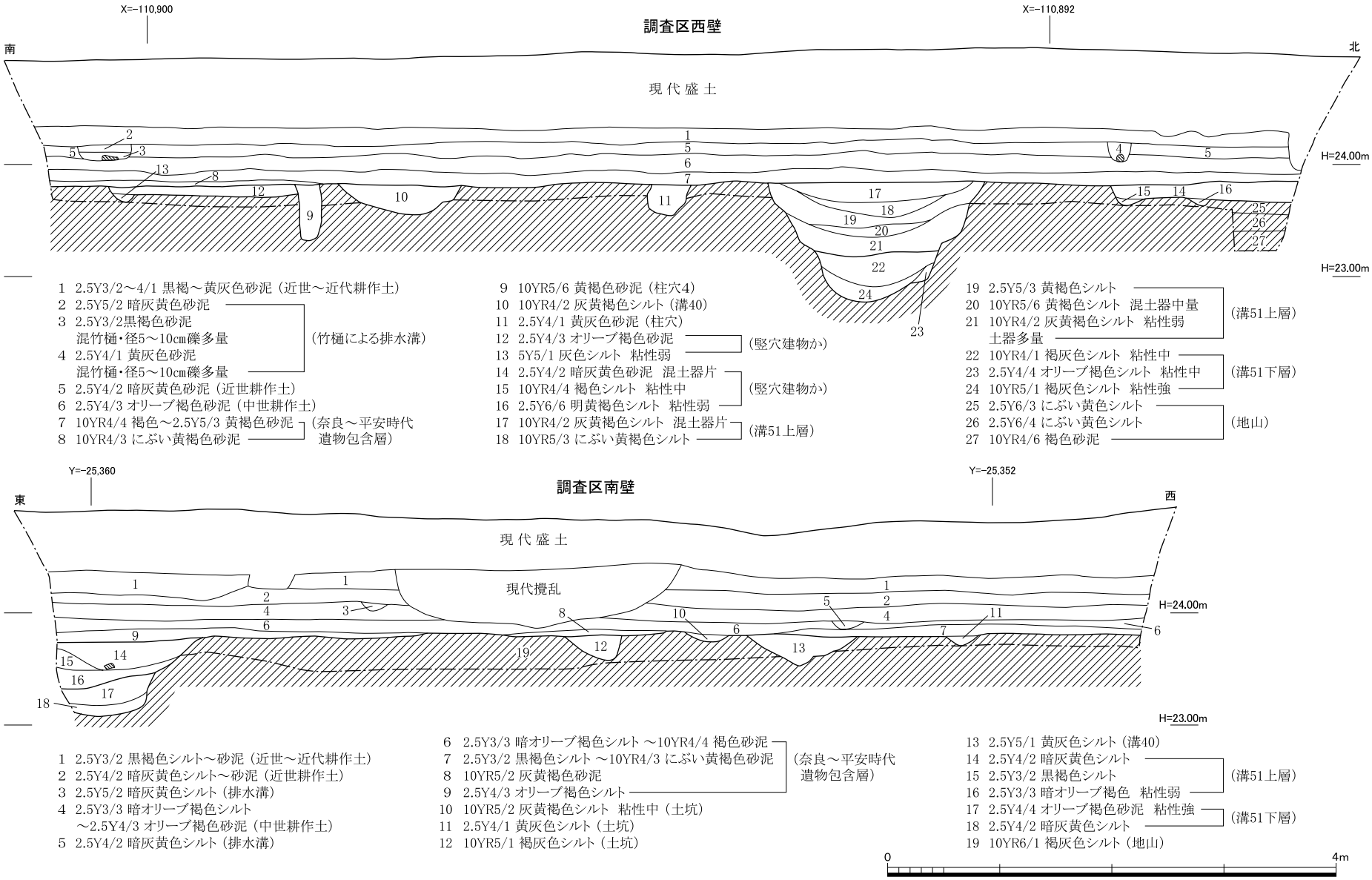


図6 調査区西壁・南壁断面図（1：50）

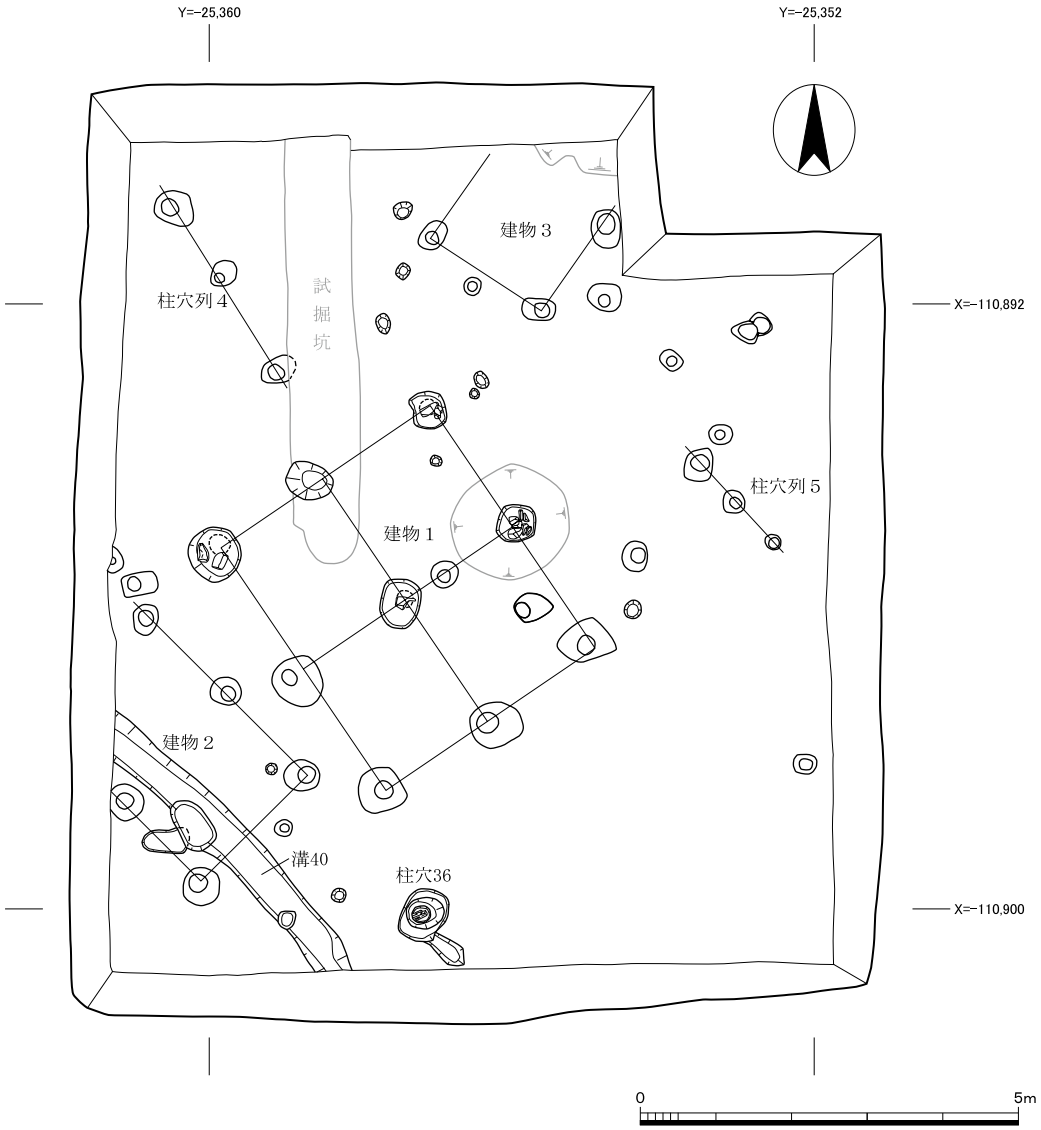


図７　第１期遺構平面図（１：100）

深さは0.1～0.3ｍである。建物の方位は北に対して東へ約35度の傾きを持つ。遺物の出土はなかった。

柱穴列４（図11）　調査区東部中央寄りで検出した柱穴３基の列である。柱間は南から約1.45ｍ・1.15ｍである。柱穴掘形は長径0.3～0.6ｍの不整円形で、深さは0.1～0.3ｍである。列の方位は北に対して西へ約32度の傾きを持つ。

柱穴列５（図12）　調査区北西部で検出した柱穴３基の列である。柱間は南から約0.75ｍ・0.7ｍである。柱穴掘形は長径0.2～0.4ｍの不整円形で、深さは0.1～0.3ｍである。列の方位は北に対して西へ約32度の傾きを持つ。

柱穴36（図13、図版２）　調査区南中央寄りで検出した柱穴である。柱穴掘形は長径約0.7ｍの隅丸方形で、深さは約0.5ｍである。底部に長さ約0.2ｍ・幅約0.1ｍ・厚さ約0.1ｍの礎板が据えられていた。礎板の樹種はヒノキ属である。

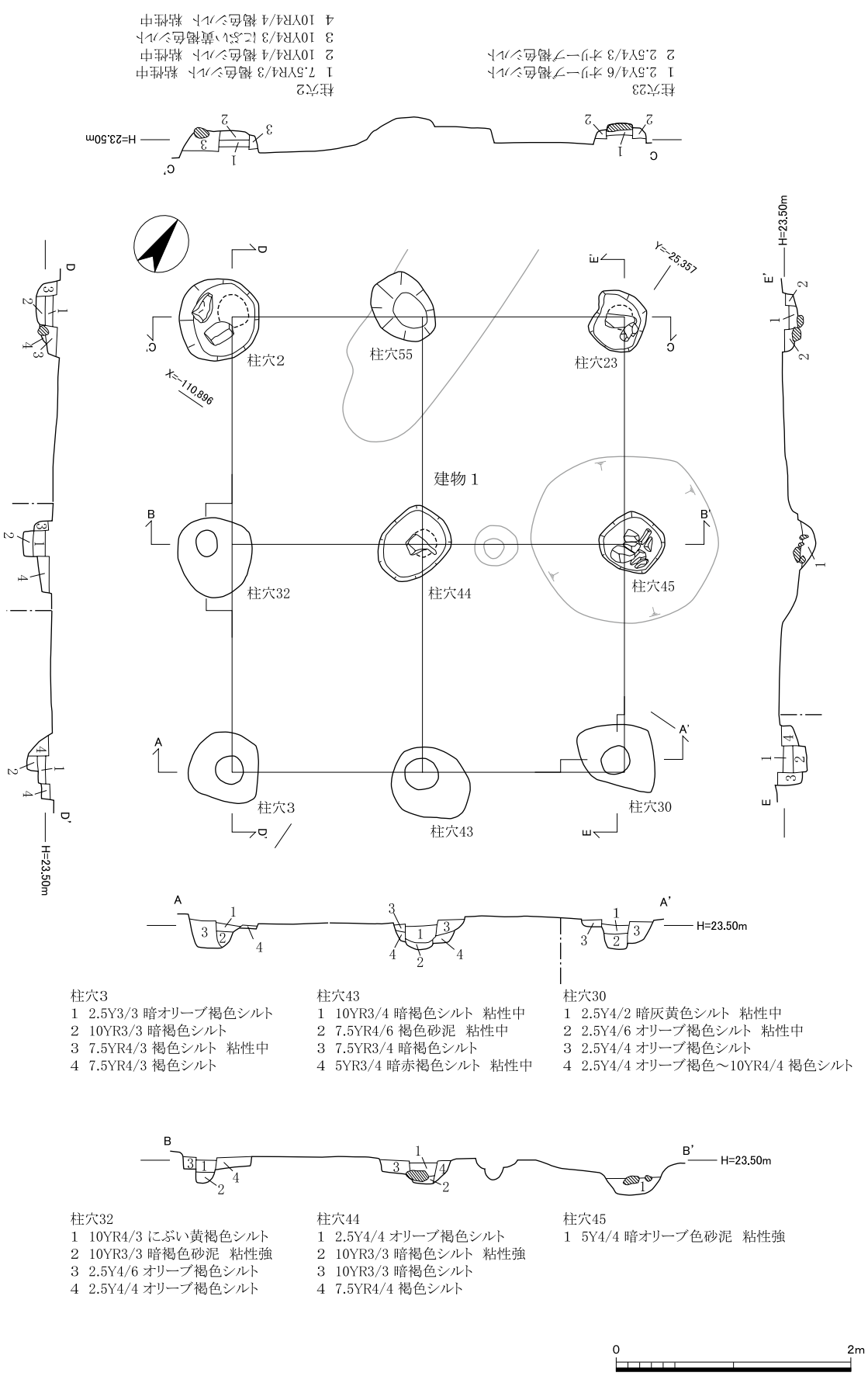


図８　建物１実測図（１：50）

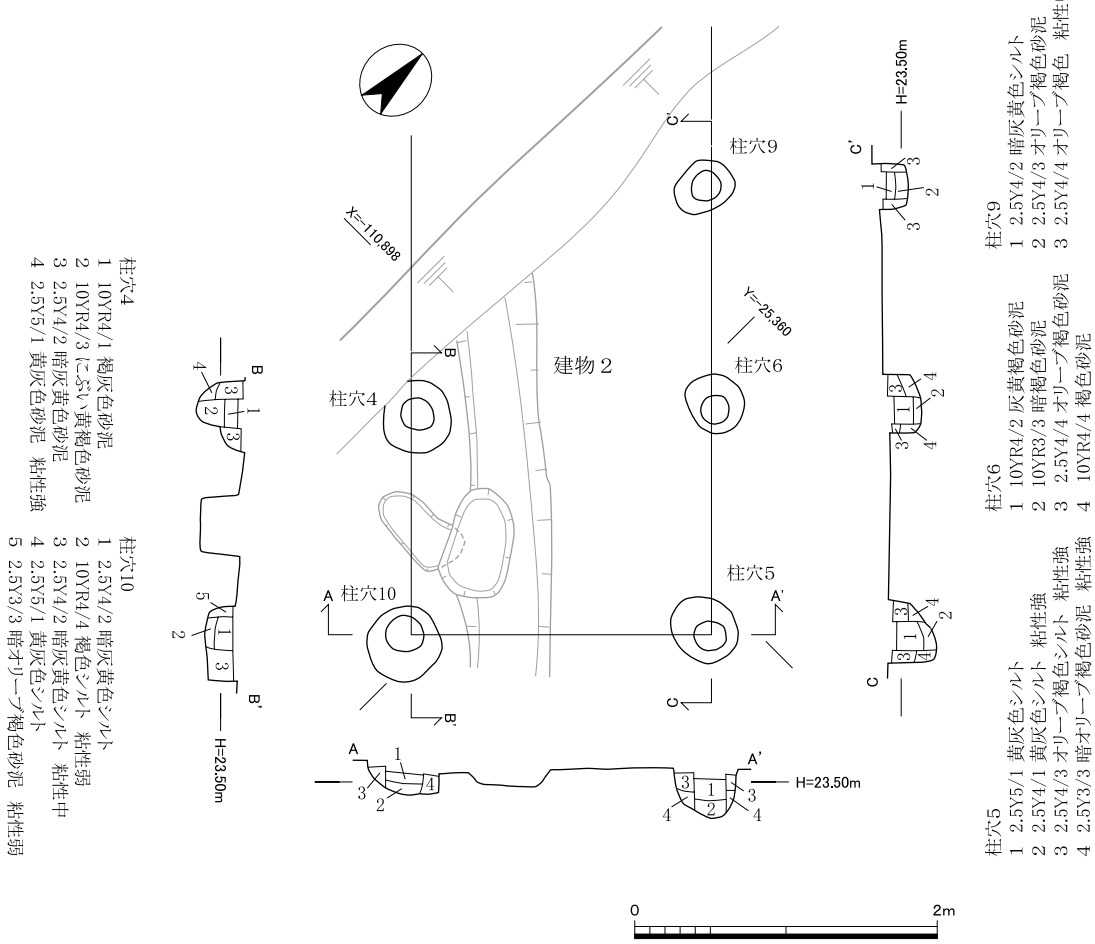


図９　建物２実測図（１：50）

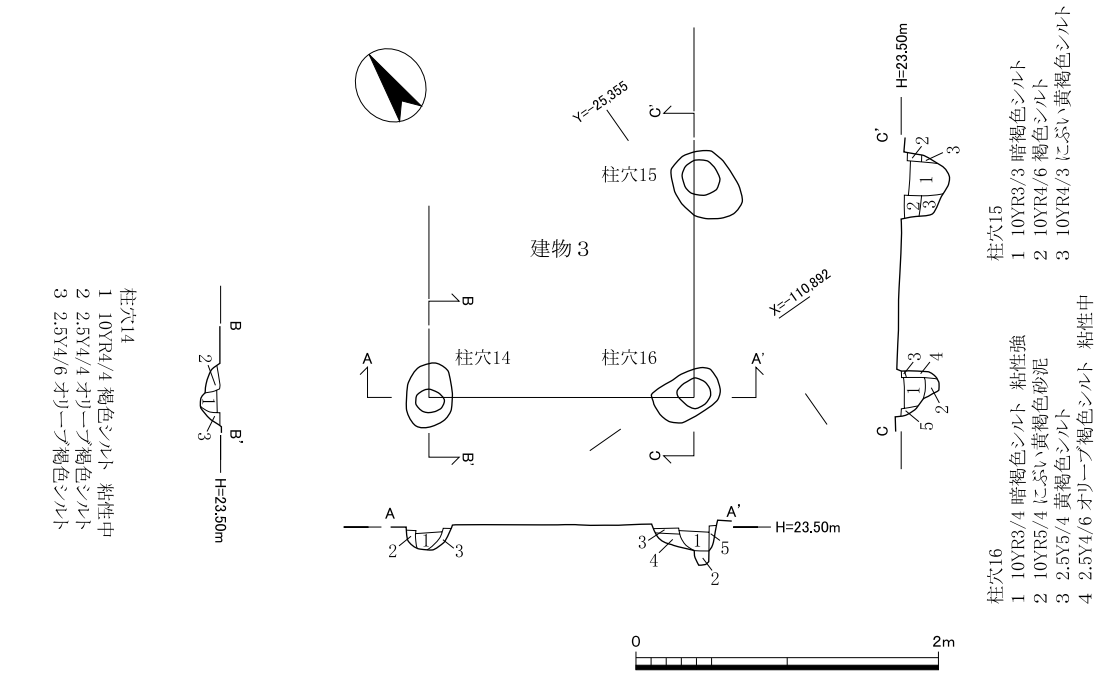


図10　建物３実測図（１：50）

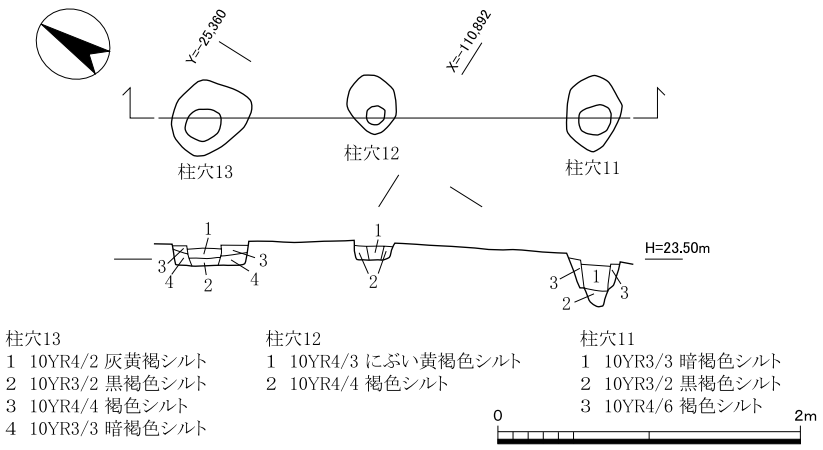


図11　柱穴列４実測図（１：50）

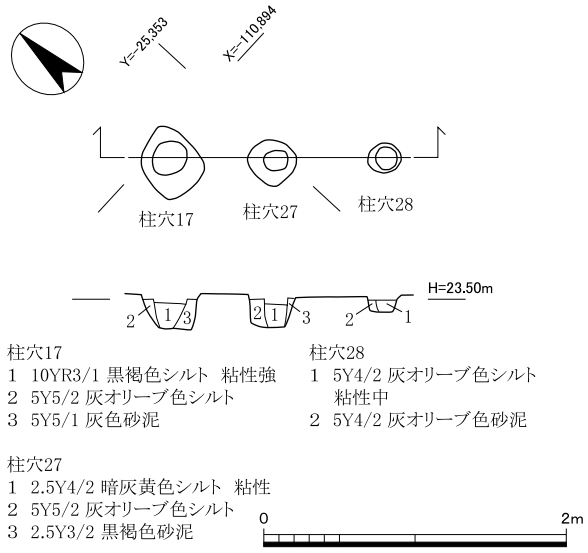


図12　柱穴列５実測図（１：50）

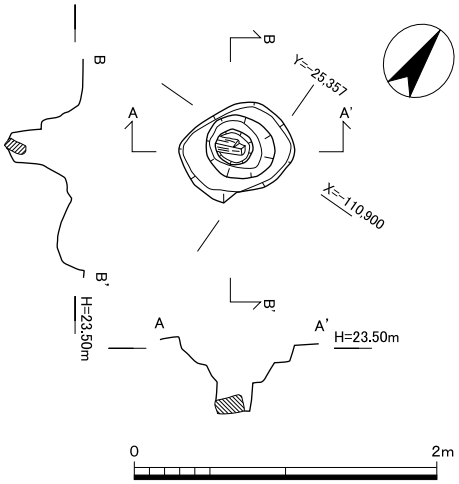


図13　柱穴36実測図（１：50）

（４）第２期の遺構（図15、図版３）

溝51（図６・14、図版３）　調査区南東部角から北西方向の溝で、両端は調査区外へ延びる。断面は逆台形状を呈する。検出長は約12ｍ、幅は1.5～1.7ｍである。深さは0.6～1.05ｍであり、底部の標高は、調査区南壁で約23.1ｍ、中央部で約23.0ｍ、調査区西壁で約22.8ｍと南東から北西へ低くなる。溝の埋土は大きく上層と下層に分かれる。下層は粘性の強いグライ化したシルトが主体で、溝機能時の湿性堆積と考えられる。上層はブロック土の混じる砂泥が主体で固く締まり、人為的な埋め戻し土と考えられる。下層から弥生時代後期後半、上層埋土下半から多量の古墳時代前期初頭の土器が出土した。

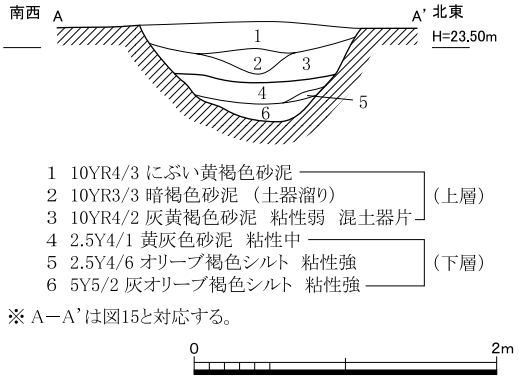
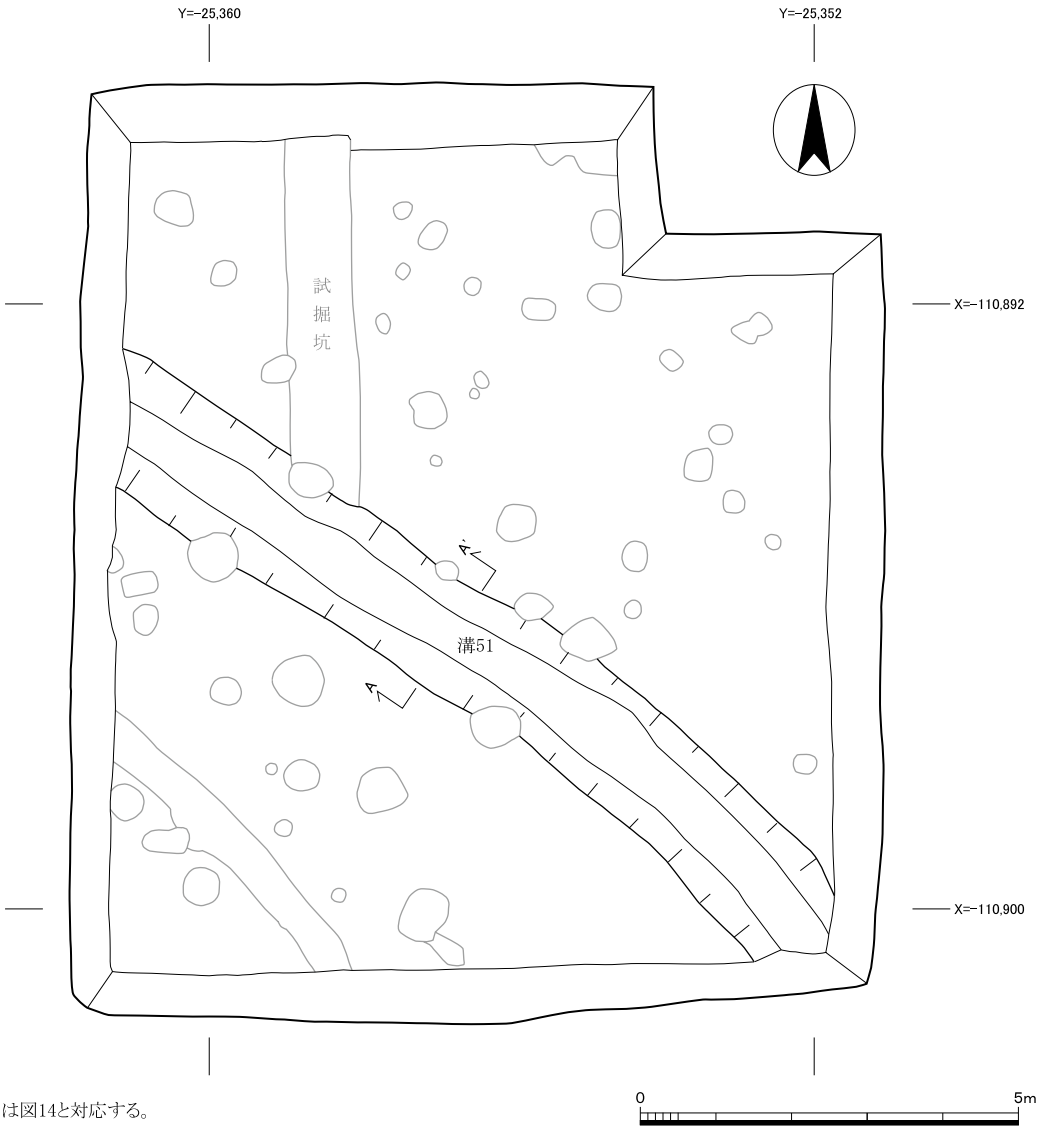


図14　溝51セクション断面図（１：50）



※ A－A'は図14と対応する。

図15　第２期遺構平面図（１：100）

４．遺　　物

（１）遺物の概要（表３）

遺物は、整理箱にして20箱出土した。種類は、土器、瓦、石器がある。土器が９割５分以上を占める。時代は、弥生時代から江戸時代までの各時期のものがあるが、弥生時代から古墳時代の土器が約８割を占める。

弥生時代から古墳時代の遺物には、溝51からまとまって出土した弥生土器や古墳時代前期初頭の古式土師器、石器がある。柱穴36からは古墳時代中期の土師器と須恵器杯蓋が出土している。その他、建物や柱列を構成する柱穴から古墳時代の土師器の細片が出土している。

飛鳥時代の遺物には、建物１を構成する柱穴から出土した土師器や須恵器の杯蓋がある。

奈良時代から平安時代の遺物には、遺物包含層から出土した土師器がある。

鎌倉時代から室町時代の遺物には、耕作土中から出土した土師器や瓦器、輸入陶磁器がある。

江戸時代の遺物には、耕作土中や重機掘削中に出土した施釉陶器や磁器、瓦片がある。

以下に溝51から出土した土器と石器の概要を述べる。溝51出土の遺物以外は細片のため、図化できなかった。

（２）土器類（図16～18、図版４・５、付表１）

溝51下層出土土器（図16）　溝51下層からは、整理箱にして４箱の土器が出土した。弥生土器の壷・甕・鉢・手焙形土器・高杯・器台がある。時期は弥生時代後期後葉に位置付けられる[1)]。

１・２は壷である。１は小型の手捏ね成形の壷で、体部外面はヘラミガキののち肩部１/３にのみ列点文を施す。２は壷底部である。上げ底で、内面はクモの巣状ハケ目、外面はハケ目のちナデで仕上げる。

表３　遺物概要表

時　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク点数	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数
弥生時代～古墳時代	弥生土器、古式土師器、土師器、須恵器、石器		弥生土器20点、古式土師器41点、石器３点		
飛鳥時代	土師器、須恵器				
奈良時代～平安時代	土師器				
鎌倉時代～室町時代	土師器、瓦器、輸入陶磁器				
江戸時代	施釉陶器、磁器、瓦類				
合　計		28箱	64点（８箱）	０箱	20箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より８箱多くなっている。

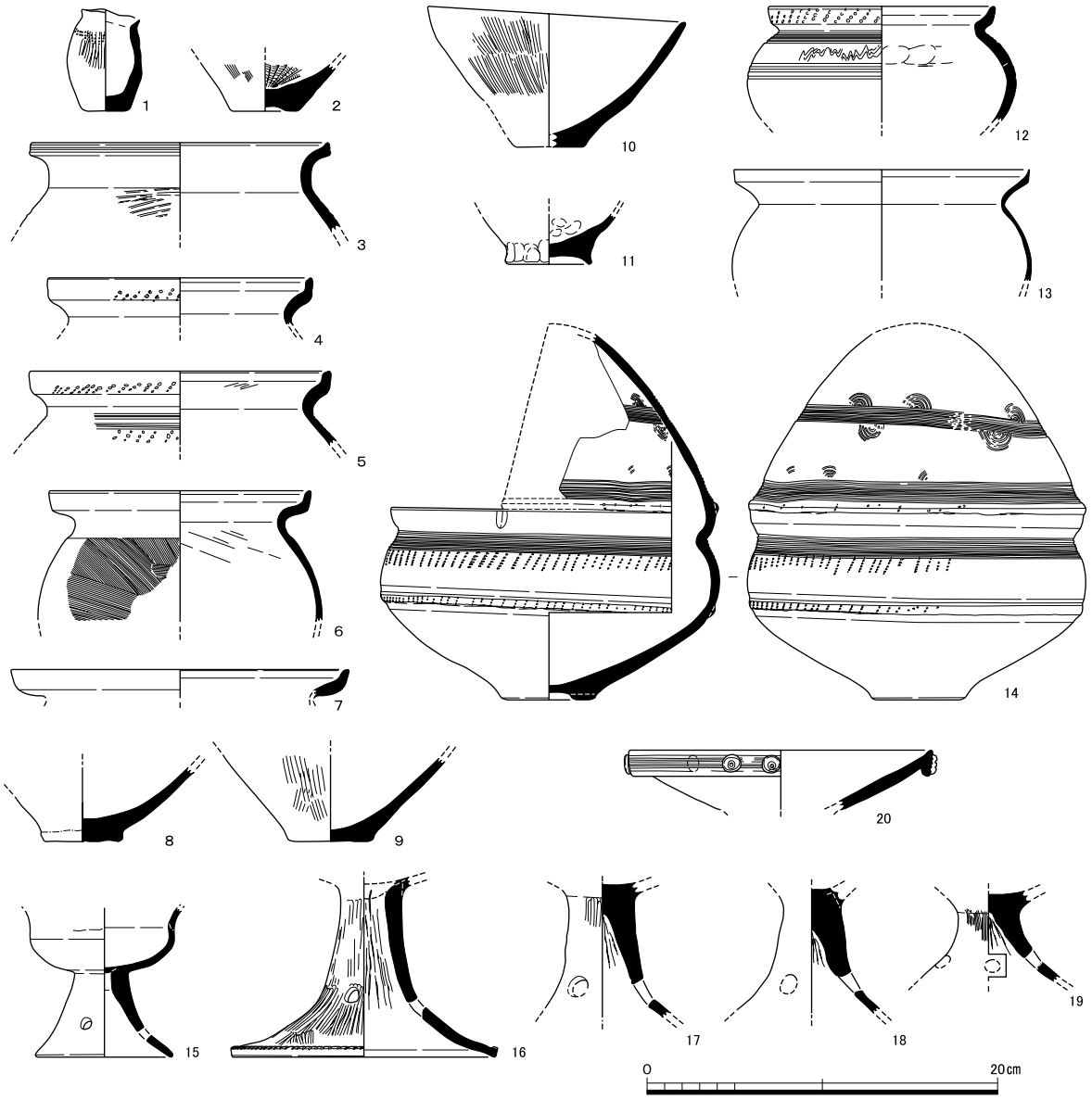


図16　溝51下層出土土器実測図（１：４）

３～９は甕である。３は直立して立ち上がる頸部から口縁部が強く外反し、端部を上下に拡張する。口縁端部に２条の擬凹線文がめぐる。体部外面は粗いタタキ目。４～７は受け口状口縁をもつ。４は口縁部のみ残存し、列点文をめぐらせる。５は口縁部に列点文、肩部に櫛描直線文と列点文をめぐらせる。６は体部ハケ目のち頸部を強く横ナデする。外面全体に煤が厚く付着する。７は口縁部のみ残存し、無文である。８・９は平底の甕底部である。いずれも外面に煤が付着する。

10～13は鉢である。10は甕下半部と同形状の体部がハの字に開く。内外面ともにハケ目のちナデで仕上げる。11は手捏ね成形の底部で、粘土紐を貼り付けて高台状にする。12・13は受け口状口縁をもつ。12は口縁端部に列点文、肩部には２段の櫛描直線文の間に櫛描波状文をめぐらせる。下半部には煤が付着する。13は無文である。

14は手焙形土器である。鉢部の受け口状口縁端部に覆部を接合し、接合部に粘土を付加して突帯とし、列点文をめぐらせる。接合部の耳は片側１箇所が残存する。鉢部は、体部最大径付近に粘土

紐を貼り付けて突帯とし、列点文をめぐらせる。肩部には７条１単位の櫛描直線文と列点文をめぐらせる。覆部は、連弧文と７条１単位の櫛描直線文の組み合わせを２段にめぐらせる。

15～19は高杯である。15は小型で、ハの字に短く開く脚部に椀形で口縁部がゆるやかに開く杯部が付く。16は皿形高杯の脚部である。中空で脚柱から脚裾にかけてゆるやかに大きく開く。脚端部は面をもち、上端部に刻目を施す。17～19はいずれも中空の脚部である。円形透かしは19のみ４方に開け、他は３方である。

20は器台である。垂下する口縁部に４条の擬凹線文をめぐらし、３個１単位の竹管円形浮文を貼り付ける。

溝51上層出土土器（図17・18）　溝51上層からは、整理箱にして10箱の土器が出土した。古式土師器[2)]の壷・甕・鉢・高杯・器台がある。時期は古墳時代前期初頭（庄内式併行期）に位置付けられる。

21～31は壷である。21～25は広口壷で、21・22は口縁部がハの字に開くもの、23・24は口縁端部を上方に拡張し、受け口状口縁になるものである。25は大型広口壷の口縁端部で、胎土に角閃石を多量に含む中河内からの搬入品である。垂下する口縁部に６条の擬凹線文をめぐらし、円形浮文を貼り付ける。26・27は短頸壷である。26の口縁部はやや内弯ぎみに立ち上がる。外面はハケ目のちナデ、内面はハケ目で仕上げる。27は小型品で、外面はハケ目のちナデ、内面はナデで仕上げる。28・29は長頸壷である。28は磨滅が著しく調整不明、29は外面ハケ目のちナデ、内面下半はハケ目、上半はナデで仕上げる。29の肩部には５条１単位の櫛描直線文がめぐる。30・31は細頸壷である。30の外面は磨滅が著しく調整不明、体部内面は指オサエで粘土紐接合痕が明瞭に残る。31は扁平な形状の体部のみ残存し、調整は磨滅のため不明である。

32～41は甕である。32は庄内式甕である。胎土から在地産と考えられる。33～35はくの字状口縁甕である。33の体部外面はタタキ目をナデ消す。36～39は受け口状口縁をもつ。36～38は口縁端部を摘み上げて受け口状にする在地の甕で、36は口縁部に列点文、肩部に11条１単位の櫛描直線文を２段、その下に列点文をめぐらせる。37は頸部に５条１単位の櫛描直線文をめぐらせる。39は近江からの搬入品で、肩部に２条１単位の波状文と１条の直線文が確認できる。40・41は底部で、40は近江からの搬入品、41は在地の甕である。

42～54は鉢である。42・43は台付鉢で、42の鉢部はくの字状口縁をもつものである。44～46はくの字状口縁をもつものである。47～50は体部がハの字状に開く甕下半部と同じつくりで、底部に焼成前穿孔がなされた有孔鉢である。51～53は受け口状口縁をもつ。51は肩部に５条１単位の櫛描直線文と列点文をめぐらせる。下半部には煤が付着する。52は無文で、外面にハケ目が残る。全体に煤が付着する。53は口縁端部を上下に拡張する。54は体部最大径付近に貼り付け突帯がめぐることから、手焙形土器の鉢部の可能性があるが、無文である。

55～59は器台である。55はゆるやかに開く脚部から受部が大きく開くもので、外面全体と受部内面はタテヘラミガキを密に施す。56～58は口縁端部を垂下させるもので、56は垂下する口縁端部に３条の擬凹線文をめぐらせる。外面と受部内面はタテヘラミガキを密に施す。57は垂下する口

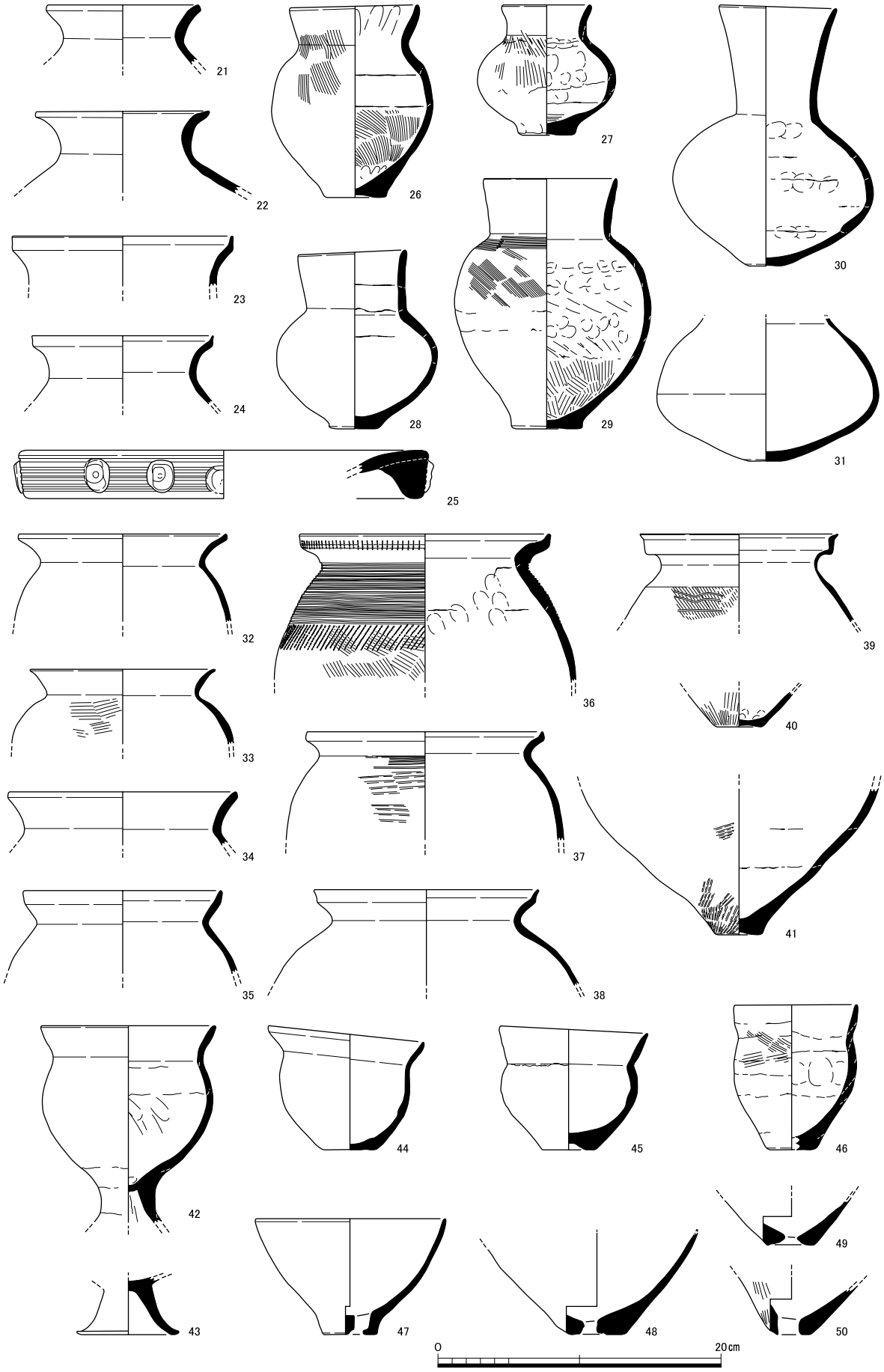


図17　溝51上層出土土器実測図１（１：４）

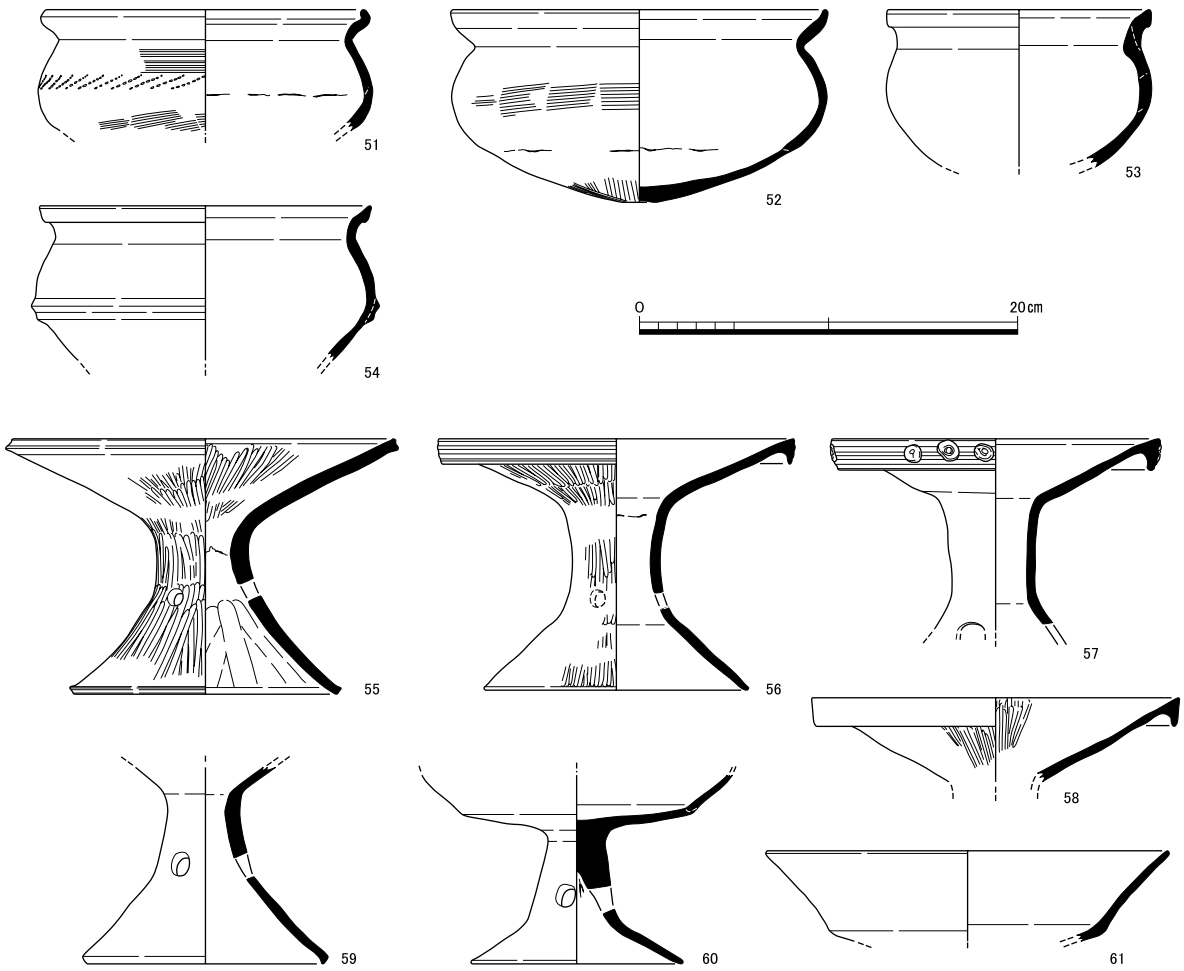


図18　溝51上層出土土器実測図２（１：４）

縁端部に３条の擬凹線文をめぐらせ、３個１単位の円形浮文を５箇所に貼り付ける。58の口縁部は無文である。59はハの字に開く脚部から明瞭な屈曲点をもって受部が開くものである。磨滅が著しく調整は不明。

60・61は皿形の杯部をもつ高杯である。60の脚部は中実で、脚裾は明瞭な屈曲点をもって開く。61は杯部のみ残存する。口縁部は直線的に開く。

（３）石器（図19、図版５）

石器は３点出土した。すべて溝51上層からの出土である。

石１・２は石皿である。石１は最大長16.2㎝、厚さ2.2㎝、重量は647.5ｇある。石材は泥質片岩である。片面に敲打痕が認められる。石２は最大長16.1㎝、厚さ2.5㎝、重量は806.5ｇある。石材は砂岩である。片面のみ摩擦により平滑になり、同一面に敲打痕が認められる。側面の一部に打ち欠いたような痕跡がある。

石３は砥石である。最大長20.7㎝、厚さ3.8㎝、重量は447.5ｇある。石材は泥岩である。４面のうち最も幅広の面が砥面で摩擦により平滑になる。片側側面の一部にも平滑な箇所があり、砥面としていたと考えられる。

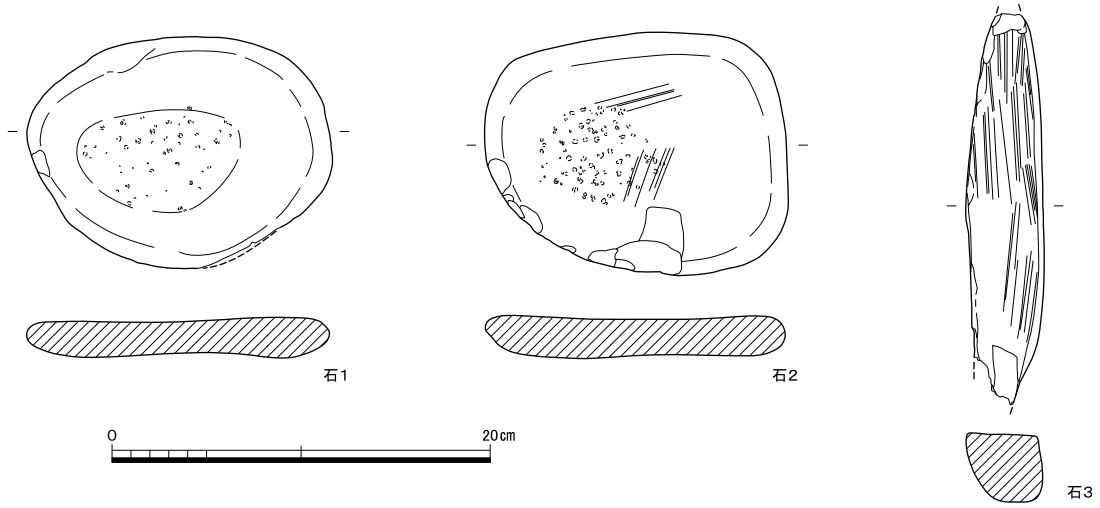


図19　石器実測図（1：4）

註

1）　弥生時代から古墳時代前期初頭の土器の形式と時期については、森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年－近畿編Ⅱ－』木耳社　1990年、高野陽子「第５章第１節出土遺物の検討」『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書第33冊　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　2003年を参考にした。

2）　当地域の古墳時代前期初頭の土器は、弥生時代の畿内第Ⅴ様式系の土器が大半を占め、個体では弥生土器と古式土師器の識別が困難なものが多いが、庄内式甕を含む一括資料であることから、ここでは上層から出土した土器をすべて古式土師器として扱う。

5．まとめ

今回の調査では、弥生時代後期から飛鳥時代までの西京極遺跡の集落に関連する遺構を検出した。2008年に実施された西隣接地の調査成果と合わせて、以下に遺構の変遷をまとめる。

今回の調査で検出した最も古い遺構は弥生時代後期に掘削されたと考えられる溝51である。これは2008年調査の溝245と同遺構で、北東から南西に低くなる自然地形に直交することや断面形状から人為的に掘削された集落内の区画あるいは排水溝と考えられる。2008年調査では、この溝と併存していた可能性が高い円形の住居246が見つかっている。この住居246と溝245（溝51）は、土器の出土状況と遺構の埋没状況から、古墳時代前期初頭の庄内式並行期段階に人為的に埋められたと考えられる。

2008年度調査地では、溝245（溝51）を埋めたのち、複数の竪穴建物が重複して建てられる。重複関係と建物方位や規模から住居188・216・242・250が同時併存、その後住居243・300が建てられたと考えられるが、いずれも庄内式並行期段階に収まり、この時期が当地での集落の盛期と考えられる。住居243・300は大型で、方形の井戸状の貯蔵穴を有し、住居243はベッド状遺構を伴う。また、この時期の建物の多くに床面から白色粘土塊が出土するという特徴がみられる。今回の調査では、平面的には当該時期の建物は検出でき

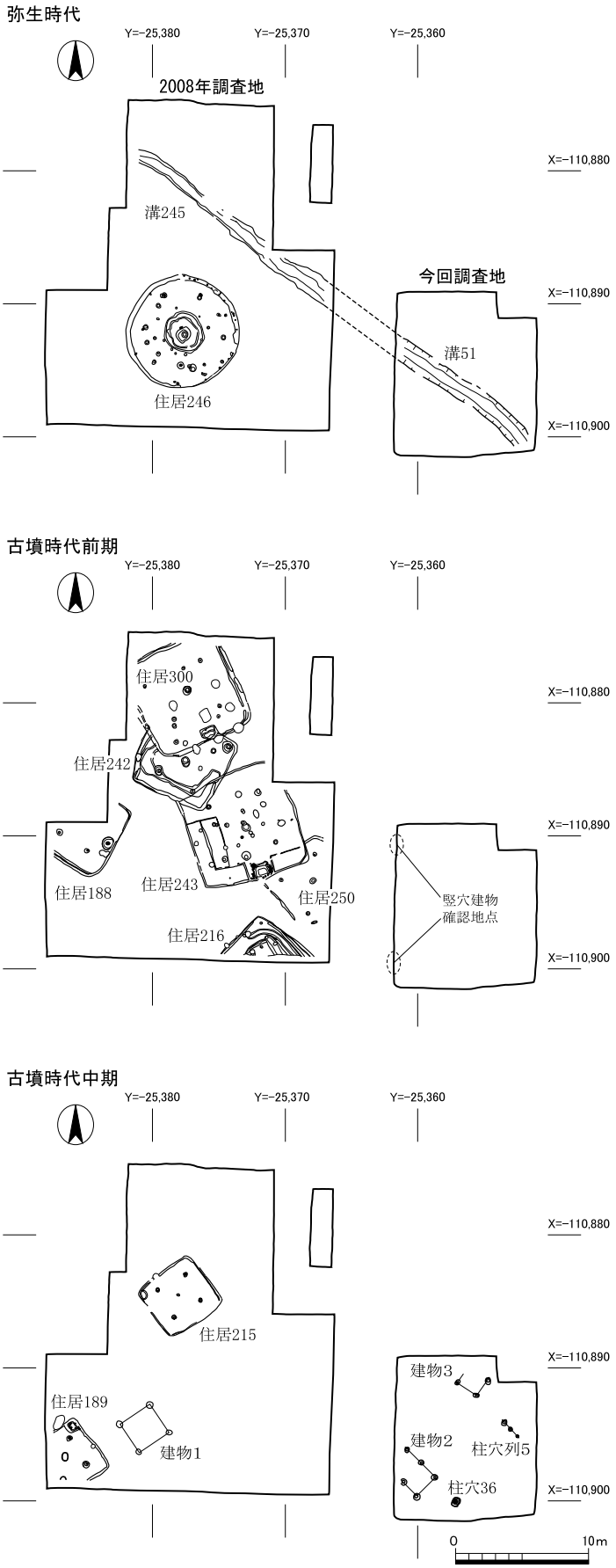


図20　遺構変遷図１（１：500）

なかったが、西壁で確認した竪穴建物２棟がこの時期に属する可能性がある。

古墳時代前期の布留式期の遺構・遺物は、両調査地ともに希薄で、2008年度調査地では、古墳時代中期の５世紀中葉になって再び竪穴建物が建てられる。住居189・215と建物１も竪穴建物の主柱穴と考えられることから計３棟の竪穴建物が見つかっている。今回の調査地では、柱穴36から古墳時代中期の土器が出土している。また、掘立柱建物である建物２・３と柱穴列５は、明確な時期を判別できる遺物は出土していないものの、須恵器が出土していないことや建物方位から当該時期と推測した。

続く古墳時代後期には、2008年度調査地では、総柱の建物２・３が建てられ、その後、周溝をもつ住居192が成立する。住居192の北東側の溝186と土坑187からは土器がまとまって出土している。今回調査地で検出した溝40はこの溝186と同遺構と考えられる。

飛鳥時代の遺構は、2008年度調査地では見つかっていなかったが、今回調査地では総柱の建物１の柱穴から７世紀初頭の土器が出土している。また、柱穴列４も遺構方位から同時期と推測した。

奈良時代の遺構は、2008年度調査地で、東西方向に並行する溝177・178が見つかっている。土地を区画するための溝、または道路状遺構の両側溝の可能性が指摘されている。この両溝はほ

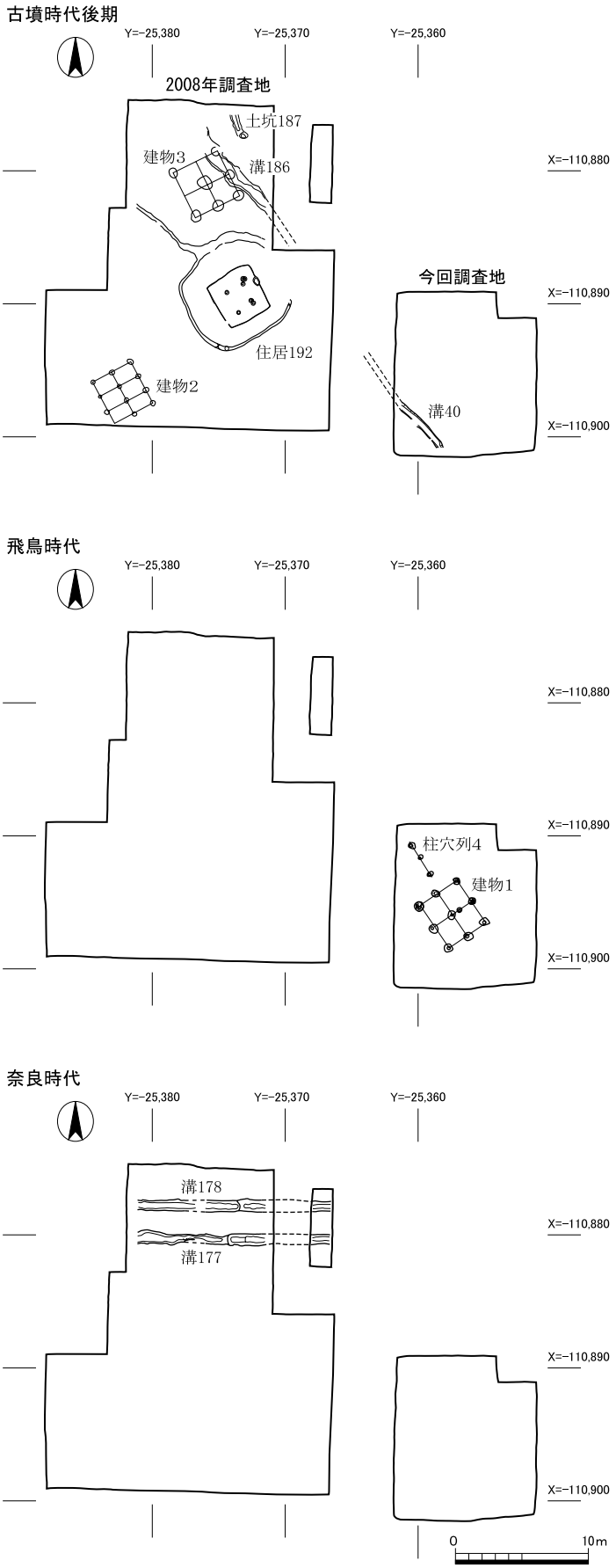


図21　遺構変遷図２（１：500）

ぼ方位に沿って掘削されているが、西京極遺跡では他地点でも奈良時代の遺構は正方位を志向していることから、条里の施行との関連が窺える。

その後の平安時代の遺構・遺物は両調査地ともに希薄であり、宅地としての利用の実態は不明である。中世には耕作地となり、現代に至るまで耕作地として利用されていたと考えられる。

以上のように、今回の調査では、2008年度調査地から連続する遺構群を検出できたことに加え、2008年度調査地では見つかっていなかった飛鳥時代の建物を検出することができた。これにより、当地が弥生時代後期から奈良時代まで継続的に集落の一部であったことが判明したことは大きな成果である。

付表１　土器観察表

番号	器種	器形	出土遺構	口径	器高	底径	色調	備考
1	弥生土器	壷	溝51下層	3.3	5.8	2.4	2.5YR6/6橙色	完存。小型品。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
2	弥生土器	壷	溝51下層		(2.8)	3.8	10YR5/2灰黄褐色	底部完存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
3	弥生土器	甕	溝51下層	16.8	(5.1)		10YR6/2灰黄褐色	1/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート少量含む。
4	弥生土器	甕	溝51下層	15.0	(2.7)		10YR8/2灰白色	口縁部2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
5	弥生土器	甕	溝51下層	17.0	(4.4)		10YR8/1灰白色	1/5残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート他多量含む。
6	弥生土器	甕	溝51下層	14.8	(7.5)		10YR7/2にぶい黄橙色	1/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
7	弥生土器	甕	溝51下層	19.2	(1.6)		10YR6/3にぶい黄橙色	口縁部1/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
8	弥生土器	甕	溝51下層		(4.2)	4.2	10YR7/2にぶい黄橙色	底部完存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
9	弥生土器	甕	溝51下層		(4.9)	4.4	10YR7/3にぶい黄橙色	底部完存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
10	弥生土器	鉢	溝51下層	14.7	8.0	4.0	5YR8/3淡橙色	3/4残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英少量、チャート多量含む。
11	弥生土器	鉢	溝51下層		(2.8)	4.6	5YR7/6橙色	底部4/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
12	弥生土器	鉢	溝51下層	12.8	(6.7)		7.5YR8/4浅黄橙色	3/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
13	弥生土器	鉢	溝51下層	16.8	(6.4)		10YR8/4浅黄橙色	3/10残存。胎土やや粗。5mm以下の長石、石英、チャート多量含む。クサリ礫少量含む。
14	弥生土器	手焙形土器	溝51下層	18.6	(20.9)	4.7	10YR7/4にぶい黄橙色	7/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
15	弥生土器	高杯	溝51下層		(8.5)	7.7	10YR8/4浅黄橙色	7/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
16	弥生土器	高杯	溝51下層		(10.3)	15.0	10YR8/2灰白色	脚部4/5残存。胎土密。1.5mm以下の長石、石英、チャート含む。
17	弥生土器	高杯	溝51下層				7.5YR8/2灰白色	脚部2/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
18	弥生土器	高杯	溝51下層				7.5YR7/4にぶい橙色	脚部2/3残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英多量、チャート少量含む。
19	弥生土器	高杯	溝51下層				10YR8/1灰白色	脚部2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
20	弥生土器	器台	溝51下層	17.2	(3.4)		5YR6/8橙色	口縁部1/8残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
21	古式土師器	広口壷	溝51上層	10.6	(4.2)		7.5YR8/3浅黄橙色	口縁部4/5残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
22	古式土師器	広口壷	溝51上層	12.2	(5.7)		5YR7/4にぶい橙色	口縁部9/10残存。胎土粗。8mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
23	古式土師器	広口壷	溝51上層	15.6	(3.5)		7.5YR8/2灰白色	1/10残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート少量含む。
24	古式土師器	広口壷	溝51上層	12.8	(4.8)		10YR8/1灰白色	口縁部3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
25	古式土師器	広口壷	溝51上層	28.0	(3.4)		10YR5/2灰黄褐色	口縁部1/8残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート含む。角閃石多量含む。中河内搬入品。
26	古式土師器	短頸壷	溝51上層	8.9	13.6	4.0	10YR8/3浅黄橙色	4/5残存。胎土密。3.5mm以下の長石、石英、チャート含む。
27	古式土師器	短頸壷	溝51上層	6.1	9.0	3.8	7.5YR7/4にぶい橙色	2/5残存。胎土密。1.5mm以下の長石、石英、チャート含む。
28	古式土師器	長頸壷	溝51上層	7.6	12.6	3.3	10YR8/3浅黄橙色	4/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
29	古式土師器	長頸壷	溝51上層	9.3	17.7	4.8	7.5YR8/3浅黄橙色	7/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
30	古式土師器	細頸壷	溝51上層	8.2	18.5	2.2	7.5YR8/3浅黄橙色	完存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
31	古式土師器	細頸壷	溝51上層		(10.1)	2.2	7.5YR7/4にぶい橙色	1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。

※ 単位はcm、( )は残存数値

番号	器種	器形	出土遺構	口径	器高	底径	色調	備考
32	古式土師器	甕	溝51上層	14.6	(6.2)		5YR8/4淡橙色	1/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート多量含む。庄内式甕。
33	古式土師器	甕	溝51上層	13.0	(5.3)		5YR7/4にぶい橙色	1/10残存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート含む。
34	古式土師器	甕	溝51上層	16.0	(3.8)		5YR7/4にぶい橙色	口縁部2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
35	古式土師器	甕	溝51上層	13.8	(5.9)		7.5YR7/2明褐灰色	1/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート少量含む。
36	古式土師器	甕	溝51上層	17.6	(10.5)		7.5YR8/4浅黄橙色	口縁部1/3残存。胎土密。3.5mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
37	古式土師器	甕	溝51上層	16.6	(7.7)		7.5YR8/3浅黄橙色	1/5残存。胎土粗。7mm以下の長石、石英多量、チャート少量含む。
38	古式土師器	甕	溝51上層	15.8	(6.8)		5YR6/6橙色	1/5残存。胎土やや粗。5mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
39	古式土師器	甕	溝51上層	13.9	(6.2)		10YR2/1黒色	口縁部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。近江搬入品。
40	古式土師器	甕	溝51上層		(2.5)	3.1	10YR8/1灰白色	底部7/10残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。近江搬入品。
41	古式土師器	甕	溝51上層		(10.3)	2.8	5YR7/6橙色	底部完存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
42	古式土師器	台付鉢	溝51上層	12.2	(14.0)		7.5YR7/4にぶい橙色	3/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
43	古式土師器	台付鉢	溝51上層		(4.0)	7.2	7.5YR8/4浅黄橙色	脚部4/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート少量含む。
44	古式土師器	鉢	溝51上層	11.0	8.7	3.6	7.5YR8/3浅黄橙色	4/5残存。胎土やや粗。2mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
45	古式土師器	鉢	溝51上層	10.4	8.7	3.7	7.5YR8/1灰白色	7/10残存。胎土粗。2mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
46	古式土師器	鉢	溝51上層	8.6	10.3	3.0	7.5YR7/4にぶい橙色	7/10残存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート含む。
47	古式土師器	有孔鉢	溝51上層	13.3	8.2	3.8	10YR8/2灰白色	4/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート含む。
48	古式土師器	有孔鉢	溝51上層		(7.2)	3.9	10YR8/1灰白色	2/5残存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
49	古式土師器	有孔鉢	溝51上層		(3.3)	3.2	5YR6/8橙色	底部完存。胎土粗。5mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
50	古式土師器	有孔鉢	溝51上層		(4.0)	2.3	7.5YR7/4にぶい橙色	底部完存。胎土粗。5mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
51	古式土師器	鉢	溝51上層	16.8	(6.4)		10YR8/2灰白色	1/5残存。胎土密。3.5mm以下の長石、石英、チャート含む。
52	古式土師器	鉢	溝51上層	19.8	10.2	1.8	7.5YR7/6橙色	1/4残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
53	古式土師器	鉢	溝51上層	13.7	(8.3)		10YR8/2灰白色	3/10残存。胎土密。6mm以下の長石、石英、チャート含む。
54	古式土師器	鉢	溝51上層	17.4	(8.2)		7.5YR8/3浅黄橙色	3/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
55	古式土師器	器台	溝51上層	20.0	13.5	13.8	5YR7/6橙色	4/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート含む。
56	古式土師器	器台	溝51上層	18.7	13.3	13.7	5YR7/6橙色	3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。
57	古式土師器	器台	溝51上層	17.1	(10.1)		10YR8/3浅黄橙色	1/2残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。
58	古式土師器	器台	溝51上層	19.4	(4.4)		7.5YR7/4にぶい橙色	1/8残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英少量、チャート多量含む。
59	古式土師器	器台	溝51上層		(10.3)	12.4	10YR8/3浅黄橙色	4/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート多量含む。
60	古式土師器	高杯	溝51上層		(10.1)	11.1	5YR7/6橙色	3/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。
61	古式土師器	高杯	溝51上層	21.2	(4.8)		5YR8/3淡橙色	1/10残存。胎土粗3mm以下の長石、石英少量、チャート多量含む。

※ 単位はcm、( )は残存数値

図　　版

1　第１期全景（北から）

2　建物１（北東から）

図版２　遺構

１　建物２（北東から）

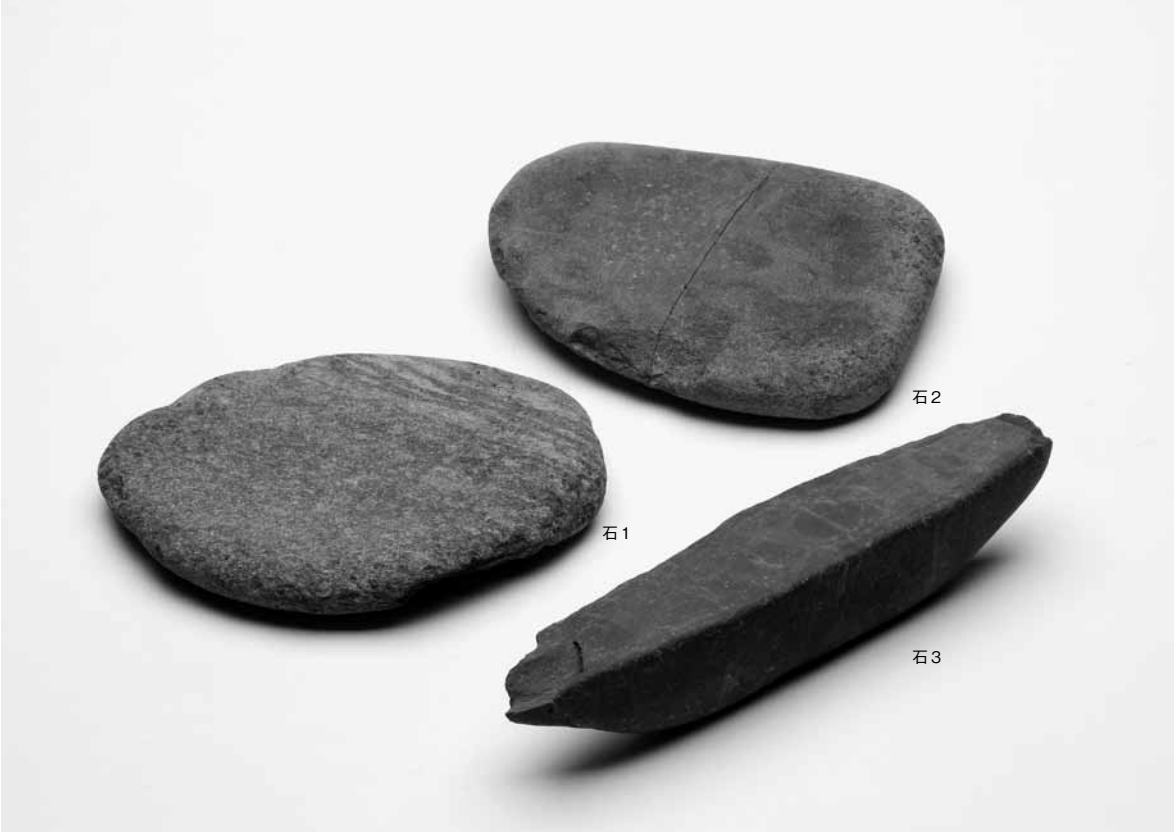
２　建物１柱穴45根固め石検出状況（北西から）

３　柱穴36礎板検出状況（北から）

１　第２期全景（北から）

２　溝51（南東から）

土器



土器・石器

報　告　書　抄　録

ふ り が な	へいあんきょううきょうごじょうしぼうろくちょうあと・にしきょうごくいせき
書　　名	平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０２０－４
編 著 者 名	布川豊治・柏田有香
編 集 機 関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発　行　所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発行年月日	西暦2020年12月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡（へいあんきょうあと） 西京極遺跡（にしきょうごくいせき）	京都市右京区（きょうとしうきょうく） 西院安塚町（さいいんやすづかちょう） 99番１	26100	1 931	35度 00分 00秒	135度 72分 ２秒	2020年５月12日～2020年６月２日	120㎡	共同住宅新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 西京極遺跡	都城跡 集落跡	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	溝	弥生土器、古式土師器、石器	弥生時代後期から古墳時代前期初頭の溝は西隣の2008年調査で検出した溝と同一のものである。
		古墳時代	掘立柱建物、柱穴列	土師器、須恵器	
		飛鳥時代	掘立柱建物、柱穴列、柱穴	土師器、須恵器	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2020-4

平安京右京五条四坊六町跡・西京極遺跡

発行日　2020年12月28日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　℡ 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093　℡ 075-256-0961